

天橋立・景観まちづくり通信

Vol. 5

～天橋立を核とした魅力ある景観まちづくりに向けて～

第3回 天橋立周辺景観まちづくり検討会を開催しました。

天橋立周辺の景観を守り育てていくための理由、
及び眺望景観や大景観を守るための方向性について意見交換を行いました。

天橋立周辺地域における景観まちづくりについての良好な景観形成の方向性と景観法を活用した実現方策等を検討する「天橋立周辺景観まちづくり検討会」の第3回検討会を、平成18年1月23日に宮津市商工会議所で開催しました。

検討会の第1部では、「なぜ、天橋立周辺の景観を守り、育てていかなければならないのか？」というテーマをもとに、様々な立場や観点から、天橋立周辺の景観の価値やその景観を守り育てていく理由等について、活発な意見交換が行われました。

続く第2部では、第1部での意見等を踏まえながら、天橋立を中心とした周辺の大景観（大景域）を守るために、景観要素として何が重要でそれらがどうあるべきか、について意見交換が行われました。



今後はこれらの意見を踏まえ、大景域における景観形成方針についての検討を進める予定です。

第1部 「なぜ、天橋立周辺の景観を守り、育てていかなければならないのか？」 ～主な意見～

共有の財産として...

- ・天橋立の景観は丹後経済のサイクルの基盤である。天橋立は国民的な財産、府民や市町民の財産であることから、地元民が天橋立を中心にしっかり景観を守って次世代に継承しなければならない。
- ・いくら美しい景観であってもゴミが散乱していれば台無し。美しい天橋立をさらに美しく守っていく姿勢が住民に希薄ではないか。

観光的观点から...

- ・昔と今では観光の質が違うと思う。時代にあったものにして、魅力的なものがあれば人が集まってくるのではないか。
- ・景色なしでは観光は始まらない。景観の基礎となっているのは景色ではないか。景観を大事にしないと結局、地域に人が来なくなったり、住まなくなったりする。
- ・「住んでよし、訪れてよし」観点から、成相山やビューランドから見て景観が美しくなければいけないと思う。
- ・昔の天橋立観光は汽船で外から見る機会が多かった。現在は中を歩く人が多くなった。地元の人利用が少ないので、何か仕掛けをしてもっと市民の親しめる橋立にしていきたい。
- ・歴史的背景があり、歌にも詠まれているからといった観点も重要であるが、現代の消費者ニーズにあった情報発信やPRも重要。

風景的观点から...

- ・昔は宮津湾にたくさん船が浮かんでいた。海に船が浮かんでいる風景も大事だと思う。

人の営みに関して...

- ・住む人がどんな生き様をして、どんな暮らしをしているのか、その結果が町並みや景観に現れてくるのではないか。
- ・昭和40年代以前の町並みは美しかった。これ以降に大きくまちの景観が激変した。高度経済成長を背景に異質なものがまちに増えてきた。「居心地のよいまち」としていく必要がある。
- ・人に勧められるような場所にすることが、身近なところでの景観の守り育て方だと思う。

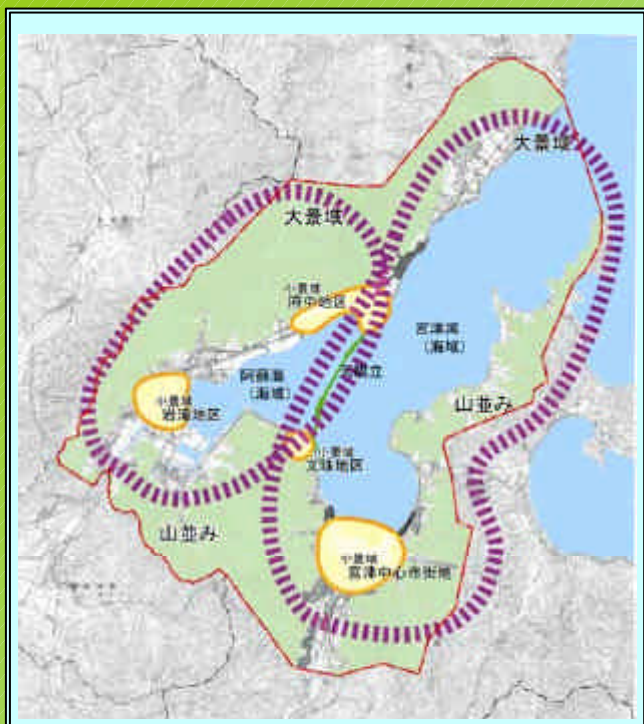
歴史的背景に関して...

- ・「歴史、自然環境、名所旧跡」が一体になっているものが天橋立の魅力だと思う。あらゆるものが蓄積した過去の記憶を内包した現代の人の心にふれるものが景観を考えていくうえで重要ではないか。

第2部 大景域を中心とした景観形成に向けた検討

～天橋立周辺の景観形成のために、何を守り、また、何に配慮すべきか？～

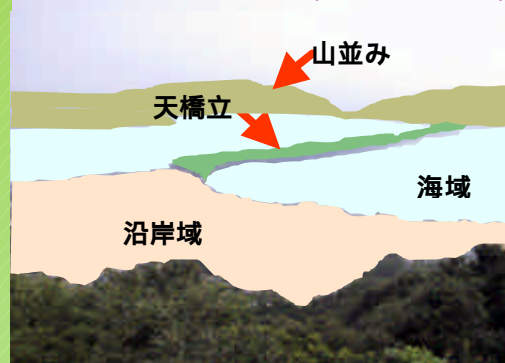
天橋立を中心とした景観構造図(大景域の構造)



(上図：検討資料より抜粋)

天橋立への良好な眺望を守るために...

何を守り、何に配慮すべきか？(検討資料より抜粋)



天橋立や山並みと調和ある沿岸域とするために...

何を守り、何に配慮すべきか？(検討資料より抜粋)



～主な意見～

- ・大景域での主役は天橋立であると思うが、背景となる水際の沿岸域や山並みは景観形成上重要である。
- ・天橋立の借景(背景)となる場所は重要だと思う。借景を守るための山並み保存や沿岸に建つ建物に配慮が必要ではないか。
- ・天橋立と海、山並みの関係は重要であると思う。山林の維持管理の問題や縦貫道の造成にも配慮すべきである。
- ・天橋立周辺のどの山からでも海が見えるというのはすごい財産だ。心を休める場所として海が見える所を昔から大事にしてきた。
- ・傘松公園から眺望した場合に大きな建物やホテル、歴史の館、大きな白いマンションも気になる。
- ・目立たせようと建てられている建物が多く見受けられる。看板も同様である。まちを良くしようという意識改革が必要である。
- ・大きな建物については前面を緑で隠し、効果的に見せる方法もある。まちづくり考え方の例として、小布施の例が参考になる。「家は個人のもの、外はみんなのもの」この発想に立てばよいのではないか。

次回(第4回)検討会について(天橋立公園の松並木と利用を考える会)との合同検討会)

日時：平成18年3月9日(木) 午後1時30分～

会場：みやづ歴史の館 大会議室

傍聴自由ですので、ぜひお越しいただき、今後の景観形成やまちづくりを考えましょう。

編集 発行

【事務局】

京都府 土木建築部 都市計画課 電話：075-414-5327(直)

京都府 丹後土木事務所 企画調整室 電話：0772-22-2143(直)